



第4章 ギャラリー

岡山天体物理観測所十七景（撮影 渡邊悦二）

“竹林寺山の四季” 渡邊悦二

“思いつくままに” 米澤誠介

“コロのはなし” 石田五郎

M1

おうし座にある超新星残骸。その姿が"かに"に似ていることから、かに星雲と呼ばれている。7000光年の距離にある、メシエ天体で唯一の超新星残骸。超新星とは、太陽の8倍以上の大きな質量を持つ星が、進化の最終段階で大爆発を起こした星のことで、その爆発によって、星を構成していたガスが宇宙空間に吹き飛ばされ、放射状に見えているものが超新星残骸である。このガスは今も、約1300km/sの速さで広がっている。かに星雲の超新星爆発は、地球では1054年に見られ、明るさは木星くらいであった。その爆発の記録は日本や中国など、あちこちの古文書にも残されている。写真は陰画で、向かって上が北、右が西。

撮影期日：1969年2月10日、露出：90分、乾板：103aF、フィルター：R-62、現像：D-19、20度、5分